

足立区教委「学力テストで予算に差」

反対意見70件超す

学力テストの成績に応じて来年度、小中学校の一部の予算増と減をうける方針を決めた足立区教育委員会。報道を受けて6日までに、反対意見が区民から70件以上届いた。「学力の格差を広げる」「義務教育なのに差をつけるのはおかしい」など批判がほとんだった。これに対し、区教育委員会(藤野昭博委員長)は「このままでは、今年度中にも区の公式ホームページ上で、区民の意見を求めることになっている」と説明。区が学校に

「画一的な経営脱す」

区教委

今回の方針は、学校の基本的な運営にかかわる教材・教具、図書購入費などについては、一学校配付予算とは別の、「特色ある学校への予算」が対象だ。「特色予算」は英語の外国人講師や部活動の指導者の派遣、パソコンの教材ソフトの購入などに使われる。今年度の一学校配付予算は小学校1校当たり平均260万5400円、中学校1校当たり200万5000円、特別予算は500万円支給される。このため、最低ランクの学校でも、昨年度の平均レベルに達する見込みだ。

親・教職員

区内の小教員2人の子供を通わせ、PTA会長も務めた藤野区長は「長年、学力テストの成績に悩まされてきた。このままでは、指導者の負担が大きい。学校経営のため、区としてサポートが必要だ」と話している。渡辺区長は「競争社会の中で、校長や教員が打ち出さず、若くは奮起する必要がある」とも良い。「学力テストの成績が、先生たちのモチベーションを下げている」と懸念を表明。藤野区長は「学力テストの結果は、子どもたちの個性や独創性を伸ばそうとする先生が減り、学力だけを伸ばそうとする先生が多くなる。これは、子どもたちの将来に悪影響を及ぼす」と懸念を表明。藤野区長は「学力テストの結果は、子どもたちの個性や独創性を伸ばそうとする先生が減り、学力だけを伸ばそうとする先生が多くなる。これは、子どもたちの将来に悪影響を及ぼす」と懸念を表明。

「成果に疑問・子らに圧力」

親・教職員

渡辺区長は「競争社会の中で、校長や教員が打ち出さず、若くは奮起する必要がある」とも良い。「学力テストの成績が、先生たちのモチベーションを下げている」と懸念を表明。藤野区長は「学力テストの結果は、子どもたちの個性や独創性を伸ばそうとする先生が減り、学力だけを伸ばそうとする先生が多くなる。これは、子どもたちの将来に悪影響を及ぼす」と懸念を表明。

ランク分け予算撤回

成績の伸び率考慮

足立区教委

2006年(平成18年)11月8日 水曜日

東京都足立区の07年度予算で、学力テストの成績に応じて各校に立小中学校をランク分けし、学校への配分額に差をつける方針を固めていた同区教委は7日、この方針を撤回した。

同日開かれた区議会文教委員会、内藤博道教育長が明らかにした。区教委の当初方針では、学力テストの成績が伸び率が高い学校は、特別予算を多く配分する方針を固めていた。撤回した理由として、学力テストの結果は、子どもたちの個性や独創性を伸ばそうとする先生が減り、学力だけを伸ばそうとする先生が多くなる。これは、子どもたちの将来に悪影響を及ぼす、と懸念を表明した。

教委は、学力テストの結果を、学校の個性や独創性を伸ばそうとする先生が減り、学力だけを伸ばそうとする先生が多くなる。これは、子どもたちの将来に悪影響を及ぼす、と懸念を表明した。また、学力テストの結果は、子どもたちの個性や独創性を伸ばそうとする先生が減り、学力だけを伸ばそうとする先生が多くなる。これは、子どもたちの将来に悪影響を及ぼす、と懸念を表明した。